



齊藤 議員

高校生までの医療費無料化は

町長 福祉審議会等で議論していく

少子化対策

再質問 下川町においても

少子化が進み、今年度は8月末現在で、出生数は9人となっている。子供を産み、育てたい環境、希望を持てる地域づくりは未来への投資であり大きな財産と思います。町長は、今後どのような取り組み、施策を考えているのか。

町長 新規事業や既存事業の拡充、見直し等を図り、子育て支援施策の充実について検討する。

再質問 少子化対策として今後の目標に挙げられるものに、①子供の健や

かな育ちの支援、②安全安心に子育てできる地域環境整備、③親族、近隣による子育て助け合いが

次世代の育成支援に繋がると。経済的な理由で結婚に踏み切れない若者に対し後押しする施策の一つとして結婚準備金の助成制度はどうか。

町長 理解はできるが、結婚に向けて準備する方に支援していくのは非常に判断が難しい。

再質問 子育て支援施策の中で実施率が高い子育ての方法や育児不安解消の相談事業がある。育児だけでなく家庭全般の相談の対応に子育て経験

のあるベテランの方がいる場を設けては。

町長 現状での組織の中でそれが可能か、もう一度見詰め直す必要があると考えますので、そこは指示します。

再質問 子育て世代の方が一定時間、乳幼児、子供を預かってもらえる取り組みは。

保健福祉課長 幼児センターが開所している時間内に一時保育という形でお預かりしている。

再質問 子育て世代の7割の家庭では生活が苦しいという結果が出ている。

中でも高校生がいる家庭では家計を圧迫しているのが現実だ。経済的負担の軽減で大きな効果が出ている事業が医療費の助成である。安心して希望する子供を持てる地域、まちづくりのためにも、高校生までの医療費無償化を求めたい。

町長 福祉審議会等や高校PTAで議論していく。

水害対策における設備の改善

再質問 近年の大雨に対して、既存の設備では、浸水、増水に対処できないのではないかと。危険箇所を点検して改善すべき対策を行うべきでは。

町長 今後、被災が予想される箇所、設備等については、随時改善を図っていく。



建設水道課長 普段のパトロールによる側溝等の清掃等を今後十分行っていく。同じ状況にならないよう工事を進めていく。

再質問 地滑り、がけ崩れ等の危険区域は改善に向けて、道、開発局に要請し協議を進めるべき。

町長 今後被災箇所等はしっかりと要望、要請をしていく。